



当公園が世界の南限地！

森の妖精“オオウメガサソウ” 開花しました。

・特別公開ガイドツアー 6/13(水)～20日(水)
・保全シンポジウム・絶滅危惧植物観察会 6/17(日)

国営ひたち海浜公園は、長い間軍用地として使用されていたため手付かずの自然が残っており、また本公園の面する太平洋沖合は、寒流と暖流がぶつかる場所であることから、園内には生息域が北限或いは南限に近い生物が混在しています。中でも“オオウメガサソウ”は、本公園が世界の南限地とされており、茨城県版レッドデータブックでは絶滅危惧種に指定、環境省レッドデータブックでも準絶滅危惧種に指定されている大変貴重な植物です。

国営ひたち海浜公園と言えば、ネモフィラやコキアといった大面積でご覧いただけるお花を想像する方が多いと思いますが、実は“オオウメガサソウ”など、レッドデータブックに記載されている植物が生息する貴重な自然が残されています。

その“オオウメガサソウ”の開花に合わせて、**6月13日(水)～20日(水)**〈休園日の18日(月)を除く〉の間、その自生地であり、通常は植物保護のために一般の方の立ち入りを禁止している「ひたちなか自然の森・植物保護区」を公開し、ガイドツアーを実施します。また、**6月17日(日)**には茨城県自然博物館との共催で、オオウメガサソウの保全活動に関するシンポジウムと、『絶滅危惧植物観察会』を開催いたします。この機会に本公園の知られざる魅力を感じていただければと思います。ぜひご参加ください。



蕾が開いたオオウメガサソウ ひたちなか自然の森特別保護区にて 2012年6月10日撮影

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報宣伝チーム 青木・服部・和光

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4

TEL: 029-265-9001 (報道関係者の方は 029-265-9004・9005 迄) FAX: 029-265-9339

ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp> “ひたち海浜公園”で検索。

オオウメガサソウ

開花:6月中旬
~下旬

イチヤクソウ科ウメガサソウ属/草状小低木(常緑)

北半球の冷温帯から亜寒帯を中心に分布し、日本では、北海道、青森県と国営ひたち海浜公園など、ごく限られた場所に自生しています。

主に、日当たりの良いアカマツ林の林床の貧栄養な砂質土壤に地下茎を伸ばして生育し、高さ10cmほどの茎の先に、直径1cmの淡いピンク色の花を咲かせます。

環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種、茨城県レッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されている植物であり、国営ひたち海浜公園が世界の南限地とされています。

梅の花に似た花を咲かせるため「ウメガサ」の名がつき、よく似た「ウメガサソウ」より大きいことから「オオウメガサソウ」と名付けられました。うつむくように可憐な花が咲く姿から「森の妖精」ともいわれています。例年6月から7月の梅雨の時期に花が咲きますが、ひとつの個体が花をつけるようになるまでには5~7年かかると言われています。

貧栄養な砂質土壤に地下茎を深く伸ばして、松の根共生菌と共生しています。小さな姿ですが立派な常緑樹、樹木のなかま・低木です。

ひたちなか自然の森で同時期に咲く花



ウメガサソウ(左) イチヤクソウ(右) 2012年6月10日撮影



茨城県自然博物館からお借りした「オオウメガサソウ」のレプリカがテラスハウスに登場します。

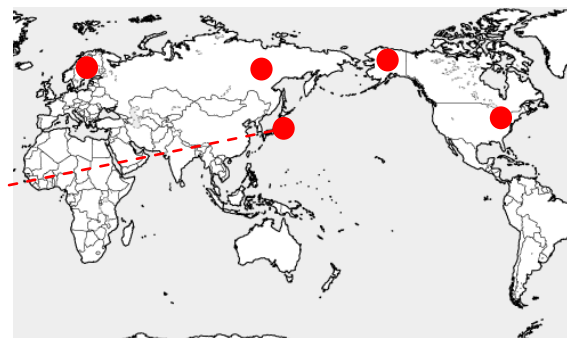


★日本における分布(都道府県)



★世界の分布

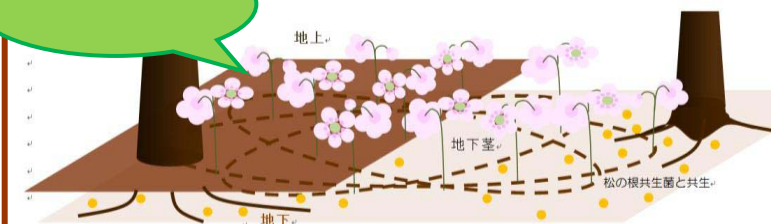
北半球の冷温帯から亜寒帯を中心として、シベリア、ヨーロッパ北部、アラスカ、米国北部、サハリンに分布



オオウメガサソウは、北半球の冷温帯から亜寒帯を中心に分布し、日本国内では、北海道、青森、岩手、茨城県のごく限られた場所に分布しています。本州での生育地は、海岸砂地など、明るいアカマツ林の林床です。青森県から茨城県までの間に生育地は確認されておらず、茨城県(国営ひたち海浜公園)は隔離的に分布した生育地となっています。

ひたち海浜公園のオオウメガサソウは、オゼイトンボと同様に氷河期の名残りと考えられています。

ウメガサソウ



地上では、数株~数10株のまとまった群落のように見えますが、実は地下茎でつながっている「ひと株」なのです。ひと株だけどこかに移したい・・・そう思っても絶対にできません。また、環境が変わると、もうそこでは生きることができなくなってしまいます。



— オオウメガサソウの生息環境 —

生育環境であるマツ林が荒れています…

オオウメガサソウにとっては、マツの根共生菌と共生していることから、マツの存在が無くては生きていけません。そのマツの林は、人の手入れがあることによって維持できるのです。しかし、長い間手入れがなされない本公園のマツ林は徐々にコナラ林へと推移し、マツが減ってきています。

手入れされた林

放置された林



手入れがされて林床がすっきりとしたアカマツ林



放置され藪(ヤブ)化した林床。丈の低いオオウメガサソウにとっては生育環境として暗くなり、この時点でもダメージを受けてしまいます。



やがてアカマツに代わり、コナラなどの広葉樹林へと推移。アカマツが減ればオオウメガサソウの生育環境も減少する。

オオウメガサソウを守るためには、良好なアカマツ林を維持することがとても重要です。

「ひたちなか自然の森」は、ひたち海浜公園の特徴ともいふべき自然が残されています。この自然の森は、面積約 12ha のアカマツを主体とする森で、かつては人々が山に入り、柴(枝)や落ち葉をとって燃料とした「里山」として、人と自然のかかわりの中で保たれていた森です。その林床には、一面を覆うコケ類やオオウメガサソウが自生し、観察池には水辺に生息するさまざまな生き物たちが暮らしています。

高木層のアカマツ、低木層のヤマウルシ、ナツハゼ、および、林床のハイゴケやハナゴケで構成された森は、適度に湿度が保たれ、人の手入れが維持されてきたことで、オオウメガサソウの生育に適した環境が保たれてきました。しかし、現在では、こうした人々の暮らしと森が切り離され、オオウメガサソウの生育が危ぶまれています。



活躍する“里山パートナー”

ひたち海浜公園ボランティア

第一回「オオウメガサソウ保全シンポジウム」を受けて、オオウメガサソウ等の貴重・有用植物の生育する里山環境の保全を目的とする「里山パートナー」が2010年10月に発足しました。平成18年度以来途絶えていたオオウメガサソウの追跡調査を行うとともに、里山管理を行うための技術을学んでいます。



オオウメガサソウの調査、実験、森の管理作業を行うなどの保全活動を実施



オオウメガサソウ ガイドツアー

野生植物の保護・育成のため、通常は来園者の立ち入りを禁止している「ひたちなか自然の森・植物保護区」では、オオウメガサソウをはじめ、ウメガサソウ、イチヤクソウ等の稀少植物がまもなく開花期を迎えます。開花に合わせて、このエリアの貴重な自然環境をより多くの方々に観ていただき、自然への関心を深めていただくことを目的として、期間限定で植物保護区を特別開放し、ガイドツアーを実施します。

■日程／6月13日（水）～20日（水）

- ①10:00～10:40
- ②10:50～11:30
- ③11:40～12:20
- ④12:30～13:10
- ⑤13:20～14:00
- ⑥14:10～14:50
- ⑦15:00～15:40
- ⑧15:50～16:30（土・日のみ）

- 受付／ひたちなか自然の森入口
（西口サイクルセンター横）
- 場所／ひたちなか自然の森 特別保護区
- 定員／各回先着 30名（当日受付）
- 参加費／無料
- 協力／茨城生物の会、里山パートナー



“オオウメガサソウ”保全シンポジウム

～オオウメガサソウをどう守るか～

第3回となる今回は、園内の希少な植物である「オオウメガサソウ」について、広く知って頂くとともに、オオウメガサソウを取り巻く有識者の方々や活動する市民の方々、絶滅危惧植物に興味のある方に集まって頂き、オオウメガサソウの保全の枠組みを構築し、より広い協力関係の中で活動の活性化を図ることを目的としたシンポジウムを開催します。

- 開催日／6月17日（日）
- 時間／10時～12時
- 場所／管理センター1階 多目的ホール
- 定員／70名（事前申込）
- 参加費／無料
- 共催／ミュージアムパーク茨城県自然博物館

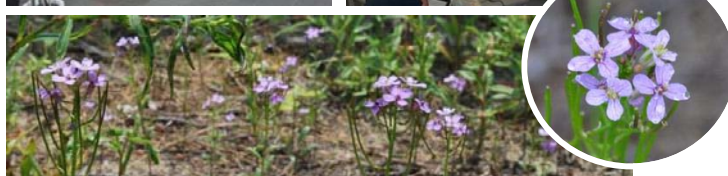


絶滅危惧植物観察会

～オオウメガサソウを見よう～

- 開催日／6月17日（日）
- 時間／13時～15時
- 場所／ひたちなか自然の森、海浜園場
- 定員／70名（事前申込）
- 参加費／無料

※本公園に生育する絶滅危惧植物等を展示する企画展を開催したミュージアムパーク茨城県自然博物館の職員が講師となります。



当園に咲く絶滅危惧植物の『ハナハタゾ』